

令和7年度 第3回 河北町地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時:令和8年1月29日(木)午前10時00分～午前11時40分

場 所:河北町役場 3階 301会議室

出席者:別紙名簿のとおり

傍聴者:無し

- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 協議
 - 河北町地域公共交通計画(案)について
 - 4 その他
 - 5 閉会
-

開会

司会のくらし応援課長が開会の辞を述べ、まず資料の確認が行われた。続いて出席者の紹介があり、寒河江警察署交通課の課長が欠席であること、国土交通省の支援官がオンラインで参加していることが報告された。

会長あいさつ

会長より、開会の挨拶が行われた。会長は、本年最初の協議会への参加に感謝を述べた後、本計画が昨年12月に議決された後期総合計画(令和8年～12年)の重点取り組み施策の筆頭に挙げられている重要なものであると強調した。

会長は「この5年間で、75歳から80代前半の人口が大きな山場を迎える、運転免許を持たない若年層と、運転が困難になる高齢層が増加する。本計画は、通学、医療、生活を支える重要な基盤となる。そのベースとなる計画の最後の詰めとなるので、活発な議論をお願いしたい」と述べ、アドバイザーや関係者への継続的な指導を願い、挨拶を行った。

協議

会長が議長を務め、協議に入った。

1. 河北町地域公共交通計画(案)について

事務局より、計画案についての説明が行われた。

まず、昨年11月の第2回協議会で示された素案に対し、その後の庁内協議、議会説明、そして12月に開催された住民懇談会での意見を反映し、今回の案としてまとめたことが報告された。主な修正点として、内容や方向性の大きな変更ではなく、文章の整理や分かりやすい表現への修正が中心であることが述べられた。

【本編の主な修正点】

- **第1章、第2章:** 文章や体裁を整理し、分かりやすさを向上。特に、昨年12月の住民懇談会の結果を反映し、課題を1ページにまとめる「課題のまとめ」を新設した。
- **第3章(基本方針):** 目標設定において、「バスに限らない新たな移動手段を検討、実証、実装することで目標達成に努める」との一文を追加し、多様な移動手段を検討する姿勢を明確にした。また、将来の統合小学校開校に伴うスクールバス運転手の必要数については、今後見直しが必要である旨の注記を加えた。
- **第4章(施策):** 運転手確保策として、給与水準の引き上げ検討や、統合小学校開校を見据えた開校準備委員会(仮称)の設置などをスケジュールに追記した。また、住民懇談会を継続していく方針を明記し、各地区の取り組みの方向性を表にまとめた。さらに、各施策の具体的な実施スケジュール(令和8年度からの実証運行開始時期など)を新たに追加した。

【資料編について】

続いて、資料編について説明がなされた。資料編には、町の人口推計、人口分布、公共交通の利便性に関する地域区分、NTTドコモの基地局情報を基にした人流データ、山交バスの利用状況、路線別・便別の利用者数データなどが参考資料としてまとめられていることを説明した。特に、1便あたりの利用者が1人を下回る路線については、今後の見直しの目安となることが示された。

【概要版について】

最後に、町民への周知を目的として作成された概要版(案)について説明が行われた。計画の趣旨、現状の課題、基本理念(町民一人ひとりの生き生きとした生活を支え、町の魅力を生かす移動手段)、そして「通学」「生活」「観光」を支える3つの基本方針、さらに具体的な目標と9つの施策を説明した。

2. 質疑応答・意見交換

説明を受け、委員による質疑応答・意見交換が行われた。

委員から、「計画の内容は素晴らしいが、町民が読んだときに具体的なイメージが湧きにくいのではないか。例えば、施策によってバスが1時間おきに200円で利用できるようになる、といった具体的な姿を示さないと、特に高齢者には理解されにくいいのではないか」との意見が出された。

これに対し会長は、「計画の41ページに示した実施スケジュールに沿って、来年度から具体的な動きが始まる。例えば、休日の寒河江市との接続については、来年の冬頃に実証事業を開始する予定だ。ベニのすけタクシーの休日運行は、できれば来年4月からの開始を目指して予算編成を進めている。こうした取り組みを進める中で、利用料金なども含め、順次具体的な形を町民の皆様にお示ししていきたい」と回答した。

委員からは、「計画を具体化していくにあたり、実際に交通機関を利用している方や、今後対象となる高校生の保護者など、当事者の意見を聴取する機会が少ないよう感じる。今後の地域説明会などでは、そうした方々にも参加を呼びかけてはどうか」という提案があった。

事務局は、「今後も地域懇談会は継続していく。その際のメンバー構成も検討し、利用者のご意見を直接伺う機会として、体験会のような取り組みも行っていきたい」と応じた。

委員からは、「若い世代がこうした議論に関心を持ち、参加してもらうための工夫が必要ではないか。また、前回の協議会で委員から、天童市からの通学者への配慮も必要ではないかとの意見があったが、その点はどのように検討されたか」との質問があった。

事務局は、「運転手不足という限られた資源の中で、まずは人流データで移動が多い寒河江市や東根市との連携に注力したいと考えている。東根市へのアクセスが確保されれば、そこから天童市への乗り継ぎも可能になる。天童市との直接接続を完全に否定するものではなく、将来的な状況の改善に応じて検討していく課題としたい」と説明した。

これに関連し、委員は、「来年度から実証運行が始まるのは大変ありがたい。その具体的な内容（運行ルートや時間）は、いつ頃までに固まり、翌年入学する中学生や保護者にPRできるようになるか」と質問した。

事務局からは、「関係機関との協議や国の許認可手続きが必要なため、詳細を確定的に公表できるのは9月以降になる見込みだ。しかし、高校側の説明会のスケジュールも考慮し、例えば6月の段階で、ある程度の方向性を示せるように調整を進めたい」との見通しが示された。会長も、「実証事業も含め、令和9年度の入学者確保に繋がるよう、高校側と連携しながら情報提供のタイミングや表現を工夫していきたい」と補足した。

交通事業者からは、「今後の路線拡充には運転手の確保が不可欠だ。町の広報誌などを活用し、公共交通を支える運転手の募集を広く呼びかけてほしい。以前、広報に掲載していただいた際に問い合わせがあり、効果を実感している」との要望が出された。

事務局は、「町の施策としても、交通事業者と連携して運転手確保に取り組むことを掲げている。今後も広報などを活用した募集に協力していきたい」と回答した。

委員(有識者)からは、「計画が策定されたことを町民に広く知らせるため、広報誌で特集を組むのはどうか。その中で運転手募集をすれば、町のプロジェクトに貢献するというメッセージ性も加わり、より効果的ではないか」との提案があった。また、計画本文のレイアウトについて、「実施主体や実施スケジュールといった項目が本文に埋もれてしまっている。見出しを強調するなど、視覚的に分かりやすくする工夫をしてほしい」との技術的な助言も行われた。

オンラインで参加した支援官は、「計画の内容は非常に良い。今後は、町民から『これをやってほしい』という要望だけでなく、『自分たちでこういうことができる』といった主体的な意見が集まるようになると、計画がさらに進化していくのではないか。そのきっかけとなるよう、情報発信を続けてほしい」と総括的なコメントを述べた。

今後の進め方について

事務局より、今後のスケジュールについて説明があった。本日の協議会で案が承認された後、府内および議会への説明を経て、2月中旬から3月中旬にかけてパブリックコメント(意見公募)を実施。寄せられた意見を整理し、3月下旬に計画を正式に策定する予定であることが報告された。

会長は、「パブリックコメントの結果を踏まえた最終的な文言の修正などについては、会長である私にご一任いただきたい。いただいたご意見とそれに対する町の考え方については、委員の皆様にもフィードバックさせていただく。パブリックコメントの結果、大幅な変更が必要な場合は、お忙しいところ申し訳ないが再度協議会を開催させていただくことをご了承いただきたい。」と述べ、協議会としての計画案が承認された。

閉会

最後に、事務局より謝辞が述べられ、第3回河北町地域公共交通活性化協議会は閉会した。